

# 認知症サポート医の活動等 に関する実態調査について

1

島根県健康福祉部 高齢者福祉課  
地域包括ケア推進室



「しまねの地域包括ケア」ポータルサイト開設



QRコード  
携帯電話で  
ホームページに  
アクセスできます。



- |         |               |
|---------|---------------|
| 1. 調査時期 | 平成31年4月       |
| 2. 調査方法 | 郵送による送付・回収    |
| 3. 対象者  | 89人（県内サポート医数） |
| 4. 回答者  | 68人（回答率：76%）  |

## 結果1 これまでの活動について

## 活動したことがある人の割合

自ら又は他の認知症サポート医と連携で実施した活動

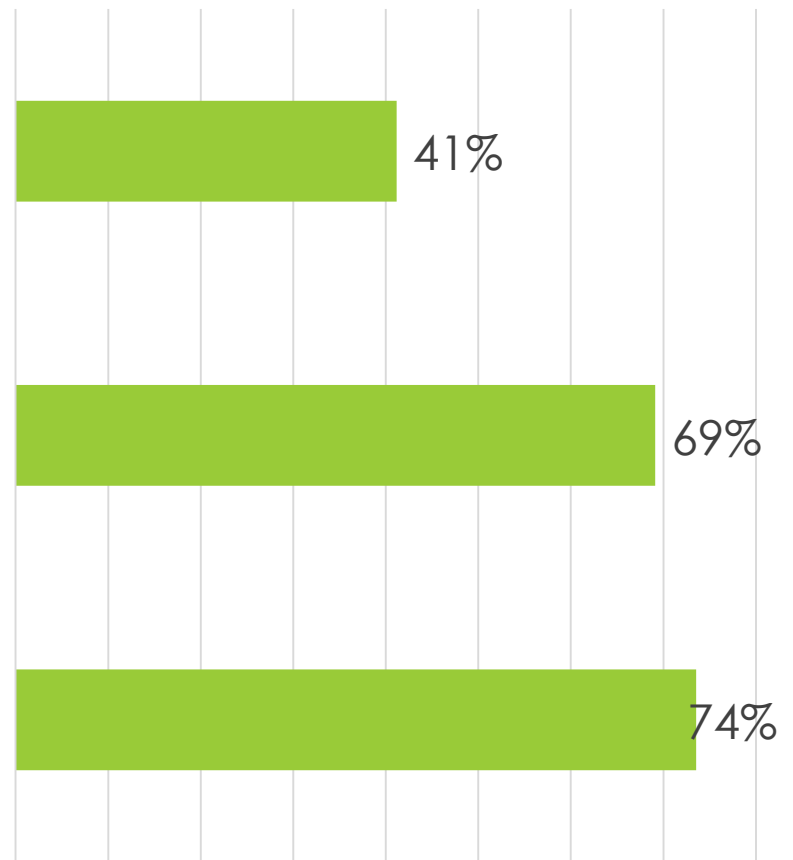
41%

かかりつけ医や医師会との連携（要請）による活動

69%

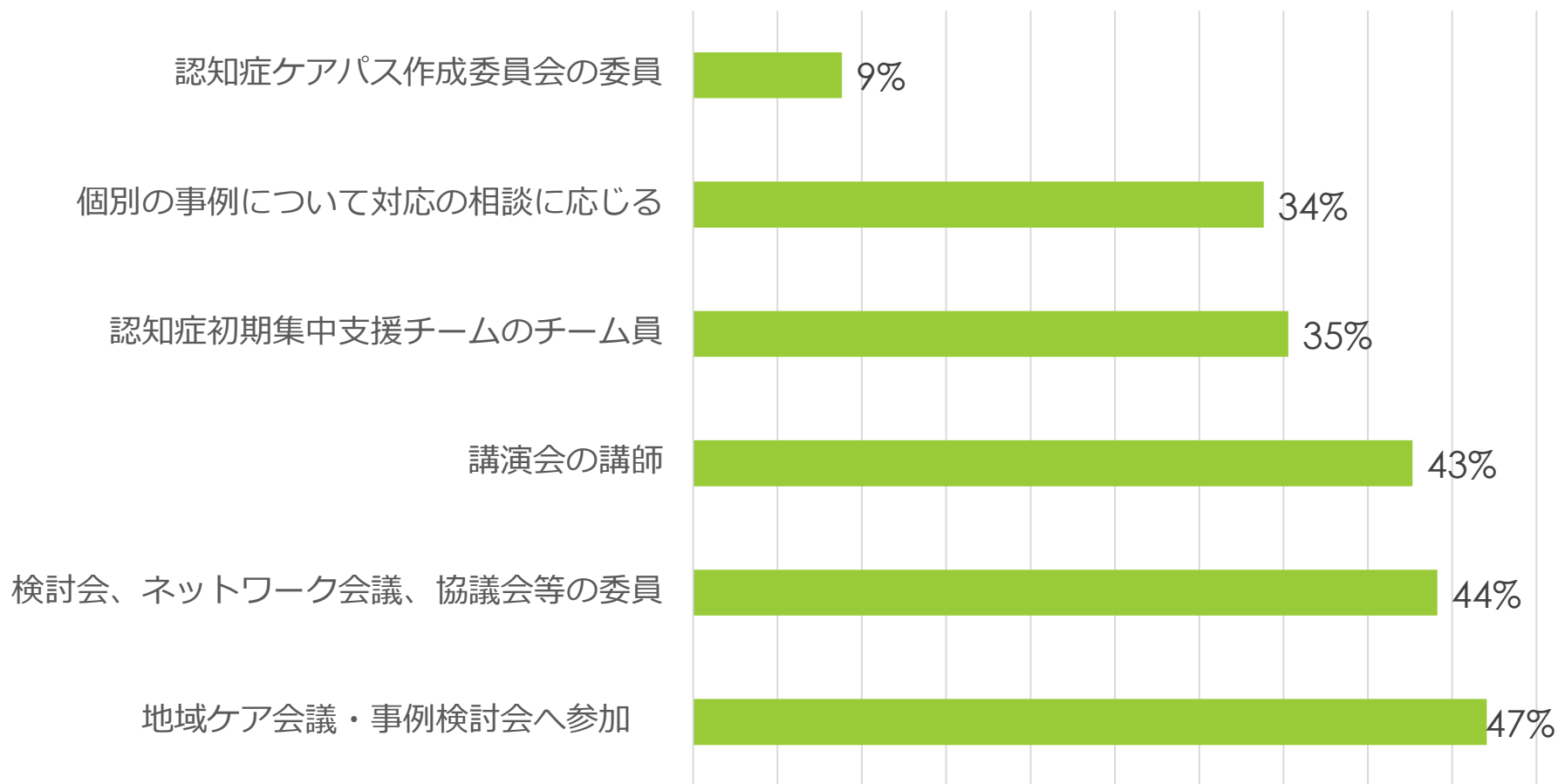
市町村や保健所との連携（要請）による活動

74%



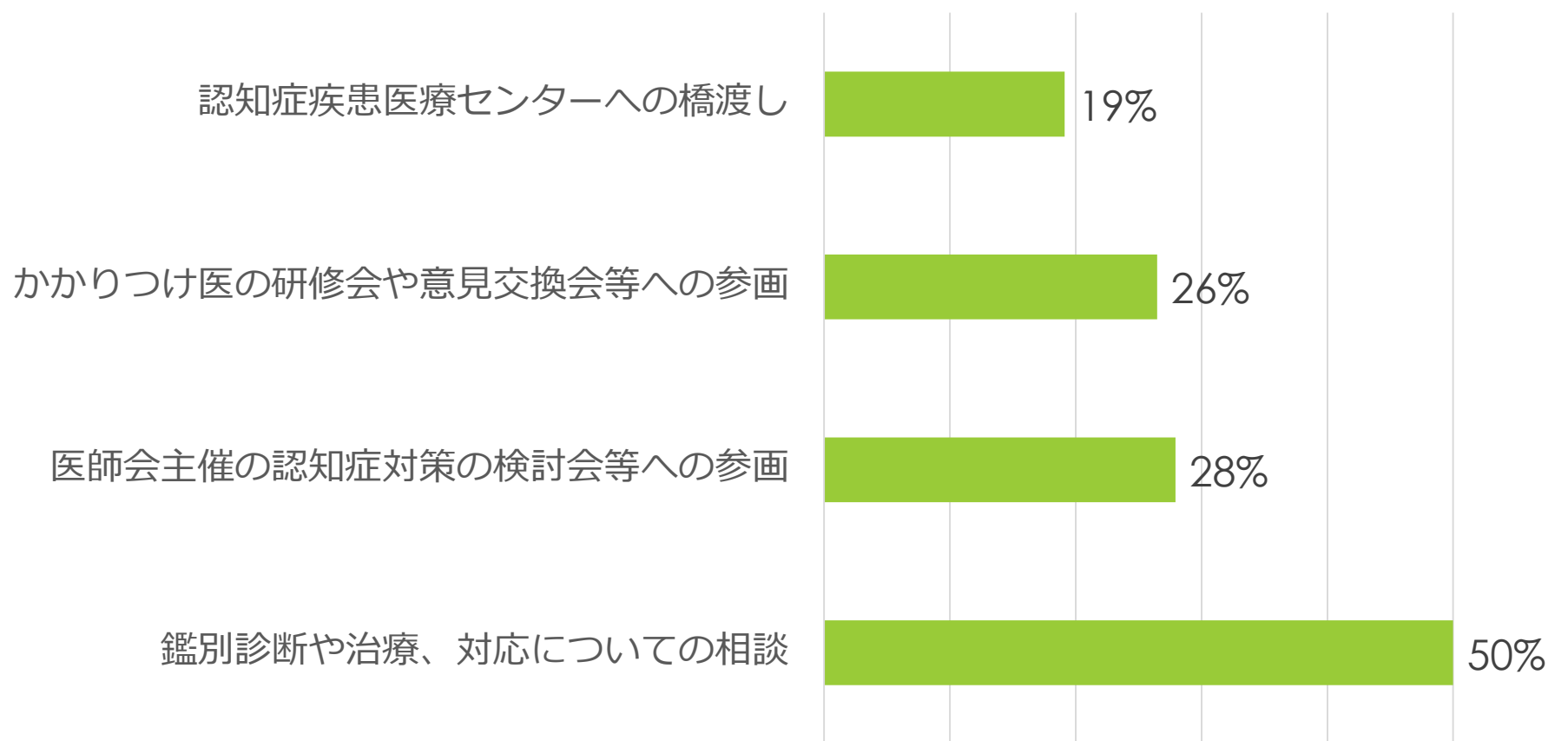
## 結果1 これまでの活動について

## 市町村や保健所との連携（要請）による活動



## 結果1 これまでの活動について

### かかりつけ医や医師会との連携（要請）による活動



## 結果1 これまでの活動について

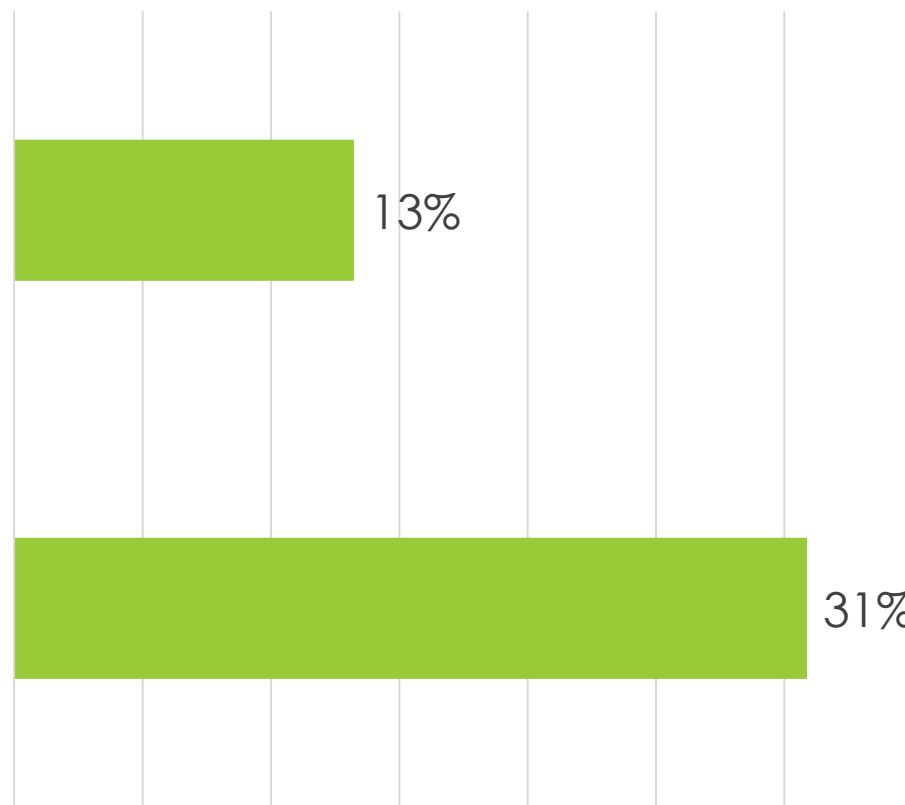
自ら又は他の認知症サポート医と連携で実施した活動

認知症サポート医の連絡会、ネット  
ワーク会議等を開催

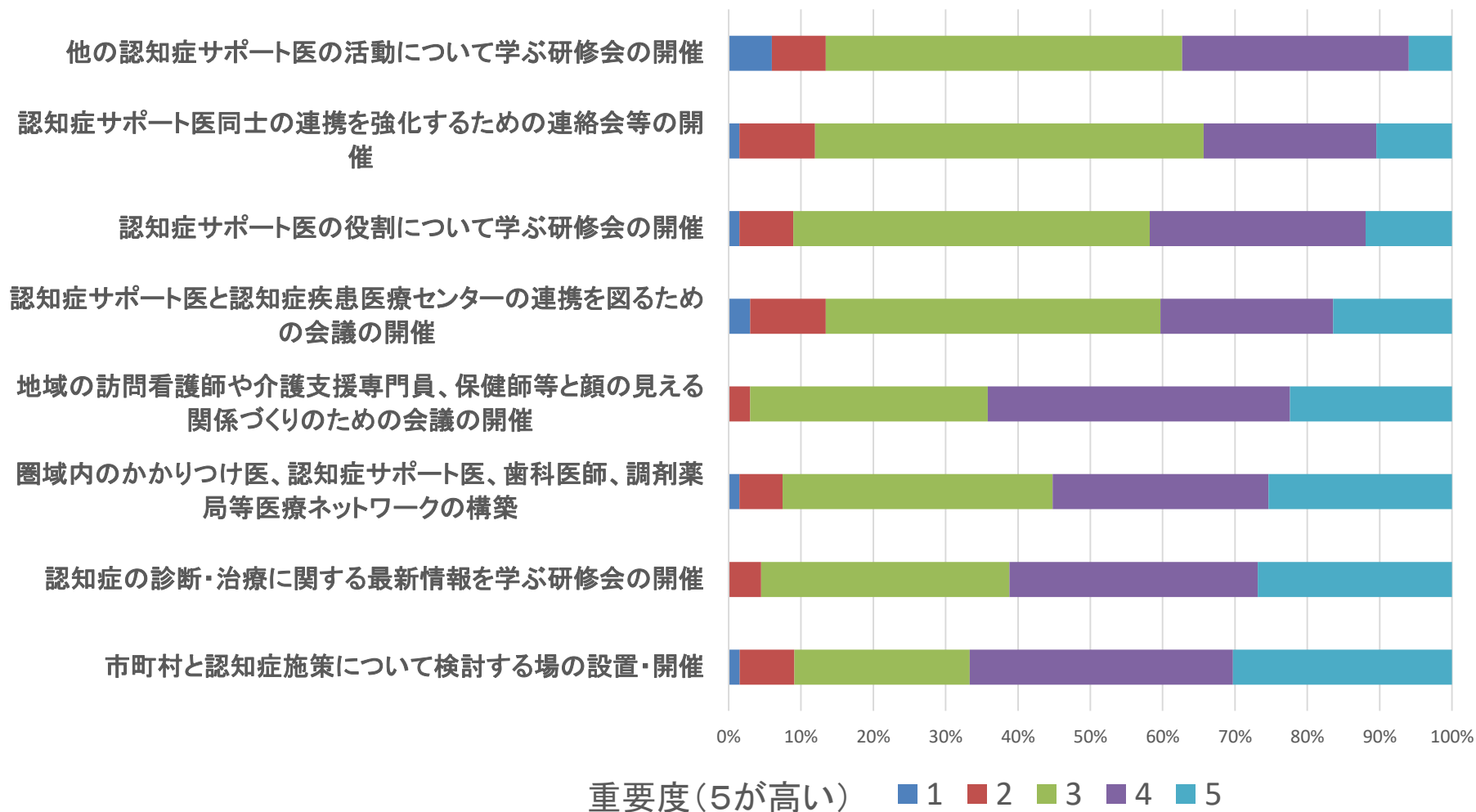
13%

講演会や出前講座等

31%



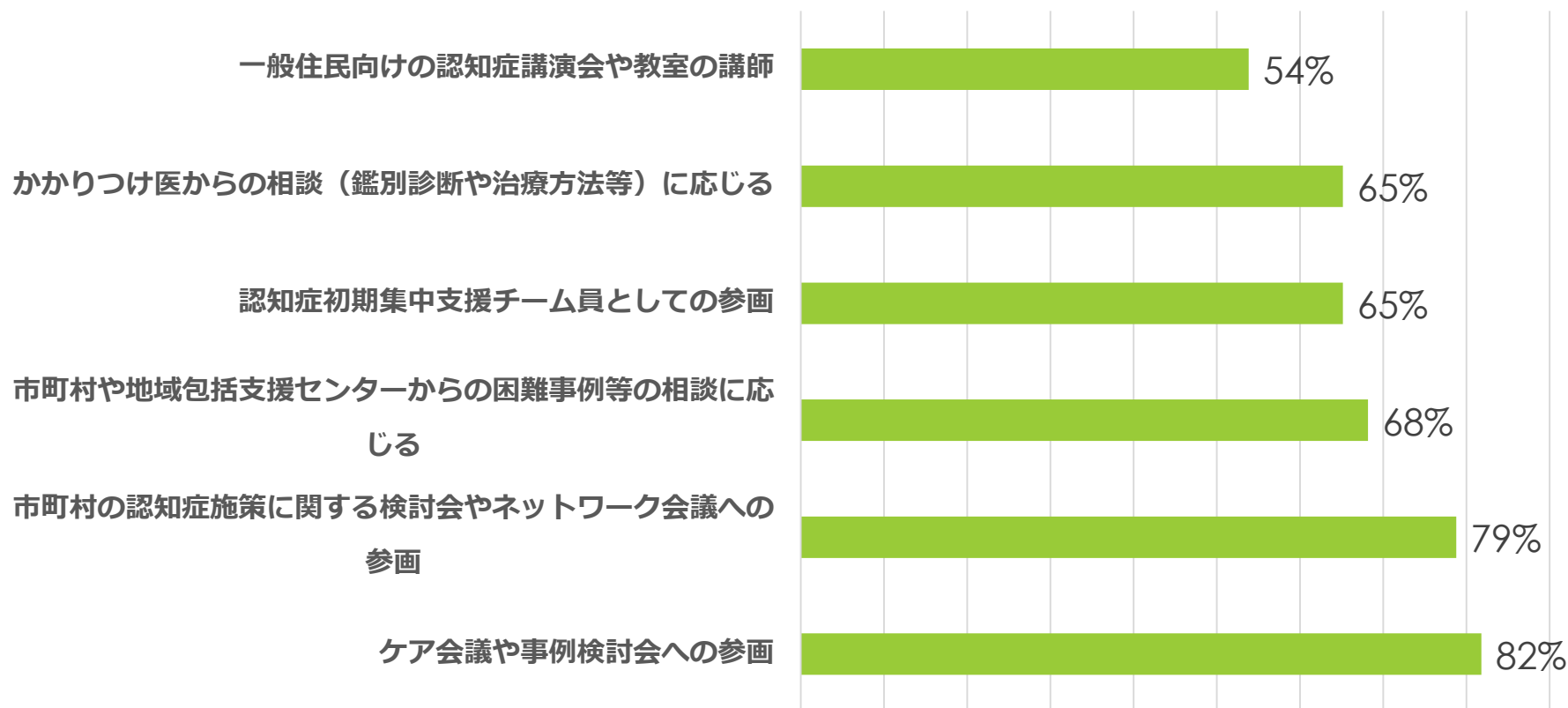
## 結果2 今後の活動について





## 結果2 今後の活動について

### 活動したい・できると思う人の割合



## 活動が難しいと思う主な理由・・・

- 専門的知識や経験がない。
- 活動をするのは専門医が妥当。
- 診療で忙しいため時間がない。
- 院外での活動を認められていない。

- 院内で講習をすることで患者への対応が向上した。
- 治療の仲介や相談窓口としての活動が重要。
- 活動していて結果が感じられない。活動内容を見直す必要があるのではないか。
- 浜田地区でもサポート医研修会を開いてほしい。
- 認知症の診断治療は日進月歩のため、新しい知識を得る機会が必要。

- 7割以上のサポート医のみなさんは何らかの活動をされている。
- これまでの活動で多いのは
  - ①事例検討会や会議への参加
  - ②鑑別診断や治療の相談
  - ③講演会や出前講座の講師 など

- 今後、重要と考えられているのは
  - ①市町村との検討の場
  - ②診断・治療の最新情報を学ぶ研修会
  - ③関係者のネットワーク構築
  
- 今後、したい・できる活動は
  - ①ケア会議や事例検討会への参加
  - ②市町村の検討会や会議への参加
  - ③市町村等からの困難事例への相談対応

- ① 圏域・市町村ごとの連携体制の構築  
⇒ 事例検討会、ネットワーク会議等の開催  
(サポート医、市町村、保健所、  
認知症疾患医療センターが中心に)
- ② 地域の関係者（かかりつけ医、訪問看護師、  
ケアマネ等）との関係づくり  
⇒ 研修会の内容充実や日頃からの相談